

【听译】 爱き夜道



たま

向こうの世界は いつも
賑やか
だけど どこか つまら
なそうだ
『一緒に笑える』それだ
けのこと
とても大切なこと

たま

対面的世界 总是很热闹

但是 总觉得哪儿 有些
无趣
『能一起欢笑』只有这一
点
是极为重要的事

ランコ

教えてくれた君への感謝
は
尽きないけど 「ありがと
う」とは
照れくさくて 言えそう
にない
今夜も 黙って干杯

ランコ

你告诉我种种的感激之情

无以言表 就连一句「谢
谢」
都羞涩得 难以启齿

今晚也 默默干杯

たま

ランコ

「忧世郁世」云々 嘆き节

肴に呷る 酒の苦味よ
けれども染み入り酔いぬ
のは
君と居るからこそ

たま

ランコ

聊起「忧世郁世」云云
悲叹处
鱼肴入口 苦酒滑肠
却说酒醺而未醉

但因有你在身旁

雨天決行

月夜に想い耽る
一方的な送り舟
何時 何時苦しみ酒が染
み

またあの日を慈しみ
癖に成る様な嫌な辛味
酒は進めど蟠り
杯に君を投影
する度波纹や花見月
瞳が嵩を増さす
揺れる心は過度な摩擦
笑い話
にも出来ずに 想いは盥
回し

雨天決行

月夜下思绪渐远
有去无还的客船
从何时起 苦酒沁心

又忆起那日慈悲
讨厌却又成瘾了的这辣酒
推杯换盏 心怒难熄
杯中你的投影
定睛欲看时波纹映月
眼瞳瞪大
摇摆的心过度摩擦
言笑之话
也想不出一句 顾左右而
言他

たま

ランコ

それでも
も回る世界

雨天決行

そう変わらず
二人は存在してる

たま

ランコ

今でも
垢抜けない

雨天決行

想いが交差し
後悔し寝る

たま

ランコ

即便如
此世界还在旋转

雨天決行

对的 不变的
两人也还存在

たま

ランコ

现在也
是蓬头垢面

雨天決行

心绪缠结 后
悔着入眠

たま

ランコ

たま

ランコ

向こうの世界は 平穏无
事

だけど どこか 息苦し
そうだ

肩の力を 抜き 過ごせ
る

場所ではないのだろう

対面的世界 平稳无事

但是 总觉得哪儿 喘不
上气来

是要放下重负忍辱苟活么

现在也还没到那种程度吧

たま

ランコ

「渡世は厌世」云々 恨み
节

肴に浸る 酒の苦味よ
けれども染み入り酔いぬ
のは

君と居るからこそ

たま

ランコ

聊起「渡世即是厌世」云
云 悲恨处

鱼肴溶口 苦酒滑肠
却说酒醺而未醉

但因有你在身旁

ランコ

仆は 名前も 知られて
ない

君の 周りには 人集り
だから 仆は
少し 離れた 場所で
君を見ていた

ランコ

你甚至不知道我的名字

你的周围人群拥聚
所以我选择
在稍微离远一些的地方
注视着你的

たま

たま

薄ざわめき 云隠れの月
妙に 肌寒い 夜の小道
足元を照らす程度でいい

今夜は 灯りが欲しい

淡淡薄云 遮掩明月
微微寒风拂面 夜间小道
只要能照亮脚边的程度就
够

今晚想要些灯火

雨天決行

当面の予定は未定
そう透明で依然 差し出
す両手

二人が見ず知らず
何て想いだす意気地無し
未来予想すら

几ら重ねても肥大妄想
喉を詰まる言いたい事
弱音を吐き崩れる膝小僧

たまにの晩 釈然の晩酌
全能まではいかず

「また、いつか」だけは誓
う

それで明日が始まりだす

実が無い話も根も叶も堀
り

二人の時間に華を咲かす
実感出来れば有終の美

雨天決行

眼下の予定は尚未确定
即是未知却依然 伸出的
双手

两人尚是陌路
为何会想起懦弱的一面
就连对未来的预想

诸事重重都是妄想
堵在喉口想说的事
说出口却全是泄气的软骨

头

偶然的夜晚 释然的酒宴
却不能如愿全能

「那么，何时再聚」只有
这句约定

就凭这句明日奋斗新的一
天

完全无实的话却能刨根问
底

两人的时光如昙花一现
如果有实感的话也想有

终之美

贵方の立場も重々承知

你的立场我也一清二楚

たま

ランコ

向こうの世界が 幕を闭
じて

彼らは 大きく 息をつ
いた

仆らもいずれ 別れるだ
ろう

それぞれの行く先

たま

ランコ

対面的世界 落下了帷幕

他们开始鼾声四起

我们某日也将相互道别吧

走向各自不同的方向

ランコ

たま

君との別れは ちょっと
悲しいけど

涙の別れは もっとつら
い

だから 仆は きっとそ
の時

笑いながらに言うよ

ランコ

たま

和你的诀别 虽有些悲伤

但流泪的告别 也更难受

所以我决定 到那时一定

会一边笑着一边说

たま

ランコ

雨天决行

二人 騒ぎ 二人 酔い耽
る

今夜が 最后でもないのに

たま

ランコ

雨天决行

两人喧闹 两人沉醉

明明今晚还不是最后

仆の 视界が ぼやけてい 我的视线渐渐模糊
く

袖で こっそり拭う 提起衣袖偷偷拂去

たま	ランコ	雨天决行	たま	ランコ	雨天决行
薄云越えて	注ぐ月明かり		穿透薄云洒落的月光		
君と 寄り添って	この夜		和你 并肩走在	这条小道	
道					
今夜は 月が明るいけど			今夜月光还算明亮		
もう少し このまま			还想这样继续一会儿		

たま	ランコ	雨天决行	たま	ランコ	雨天决行
「忧世郁世」云々	叹き节		聊起「忧世郁世」云云	悲	
			叹处		
肴に呷る 酒の苦味よ			鱼肴入口 苦酒滑肠		
けれども染み入り酔いぬの			却说酒醺而未醉		
は					
君と居るからこそ			但因有你在身旁		

たま	ランコ	雨天决行	たま	ランコ	雨天决行
「渡世は厌世」云々	恨み节		聊起「渡世即是厌世」云云		
			悲恨处		
肴に浸る 酒の苦味よ			鱼肴溶口 苦酒滑肠		
けれども染み入り酔いぬの			却说酒醺而未醉		

は

君と居るからこそ

但因有你在身旁

以上歌词标注了三人配合时每人负责唱的部分，

たま

是魂音泉，

ランコ

是豚乙女，还有男声

雨天決行

。歌词用的和语词比较多，意向有些难以把握，上面的翻译只是凭借我个人的理解。

下面给出标上了假名适合跟唱的版本，顺便在右边配上一些难以翻译的字词的解释：

たま

む 向 せかい こうの 世界 は いつも いつも
にぎ 賑 やか

だけど どこか つ 詰 まら
なそうだ

いっしょ 『 一 緒 に わら 笑 える 』 それだ
けのこと
たいせつ とても 大切 なこと

たま

にぎ 賑 やか：喧嚣，吵杂，热闹

ランコ

おし 教 えて くれ た きみ 君 へ の かんしゃ 感謝
は

ランコ

つ
尽 きないけど 「ありがと
う」とは

て
照 れくさくて 言 えそう
にない

こんや だま かんばい
今夜 も 黙 って 干杯

つ
尽 きない：无法完全表达
出来

たま

ランコ

うきよ うつせ うんぬん なげ
「忧世 郁世」云々 叹 き
ぶし
节

さかな あお さけ にがみ
肴 に 呷 る 酒 の 苦味 よ
けれども しみ いり よい
ぬのは
きみ い
君 と 居 るからこそ

たま

ランコ

うきよ うきよ
忧世 即 浮世 ， 佛教厌世观
うきよ うつせ
的说法。「忧世 郁世」即是
说「这个浮躁变换的世界
也是令人忧郁的世界」。
ぶし
节：那时，那一刻，那一
点。

し い よ
染 み 入 り：酒劲上头。 酔
いぬ：不酔。

雨天決行

つきよ おも ふけ
月夜 に 想 い 耽 る

いっぽうてき おく ぶね
一方的 な 送 り 舟

いつ いつ くる さけ し
何時 何時 苦 し み 酒 が 染

雨天決行

おも ふけ
想 い 耽 る：沉浸在思绪
中。

いっぽうてき おく ぶね
一方的 な 送 り 舟

いつ いつ くる さけ し
何時 何時 苦 し み 酒 が 染

み

またあの日を慈しみ

癖に成る様な嫌な辛味

酒は進めど蟠り

杯に君を投影

する度波纹や花见月

瞳が嵩を増さす

揺れる心は過度な摩擦

笑い話

にも出来ずに想いは

盥回し

わだかま

蟠り：语源是千足虫很多脚快步走过的样子，引申义在这儿可以有两种解释，其一是酒杯像虫脚一样快快下肚，其二是心中烦闷和厌恶之情难以消解。

とうえい

投影：这里下句加する是做动词，将你投影进杯中。

はなみづき

花见月：花中月，代指农历三月，这里可能是本意也可能是点出时间的引申意。

かさ

嵩：面积，体积。

たらいまわ

盥回し：迂回，不切中主题的方式，推诿责任的态度

たま **ランコ** それで

まわ せかい
も 回 る 世界

雨天決行 そう ^か変 わらず

ふたり そんな
二人 は 存在 してる

たま **ランコ** ^{いま}今 でも

あかぬ
垢 抜 けない

雨天決行 ^{まま}想 いが交 差 し

こうかい ね
后 悔 し 寝 る

^{あかぬ}垢 抜 ける：本意清扫灰
尘，延伸到整洁的样子，
否定形式表示蓬头垢面的
样子。

^{まま}想 いが交 差 し：这里歌词
当て字标作「想いが交差
し」直译是「思绪相互交
错」，唱出来的是「ま
ま」两个音。

たま **ランコ**

む せかい
向 こうの 世界 は
^{へいおんぶじ}
平 穩 无 事

だけど どこか 息 苦 し
そう だ

かた ちから ぬ す
肩 の 力 を 抜 き 過 ご
せる

ばしょ
场 所 ではないの だろ う

たま **ランコ**

対 面的 的 世 界 平 穩 无 事

但是 总 觉 得 哪 儿 喘 不
上 气 来

是 要 放 下 重 负 忍 辱 苟 活 么

现 在 也 还 没 到 那 种 程 度 吧

たま **ランコ**

たま **ランコ**

とせい えんせい うら ぶし
「渡世は厌世」 恨み 节

さかな ひた さけ にがみ
肴に 浸る 酒の 苦味よ

けれども しみ 入り 酔い
ぬのは

きみ い
君と 居るからこそ

聊起「渡世即是厌世」云
云 悲恨处

鱼肴溶口 苦酒滑肠

却说酒醺而未醉

但因有你在身旁

ランコ

ぼく なまえ し
仆は 名前も 知られ
てない

きみ まわ ひと たか
君の 周りには 人集
り

だから ぼく
仆は

すこ はな ばしょ
少し 離れた 場所で

きみ み
君を見ていた

ランコ

你甚至不知道我的名字

你的周围人群拥聚

所以我选择

在稍微离远一些的地方

注视着你

たま

すすき くも がく
薄ざわめき 云隠れの
つき
月

みょう はだ ざむ よ
妙に 肌寒い 夜の

こみち
小道

あしもと て ていど
足元を 照らす 程度でい
い

たま

淡淡薄云 遮掩明月

微微寒风拂面 夜间小道

只要能照亮脚边的程度就
够

今夜は 灯りが欲しい

今晚想要些灯火

雨天決行

当面の予定は未定

そう透明で依然 差し出す両手

二人が見ず知らず

何て想いだす意気地無し

未来予想すら

几ら重ねても肥大妄想

喉を詰まる言いたい事

弱音を吐き崩れる
膝小僧

たまにの晩 釈然の
晩酌

全能まではいかず

「また、いつか」だけは誓う

それで明日が始まりだす

実が無い話も根も叶も
堀り

雨天決行

眼下の予定は尚未确定

即是未知却依然 伸出的
双手

两人尚是陌路

为何会想起懦弱的一面

就连对未来的预想

诸事重重都是妄想

堵在喉口想说的事

说出口却全是泄气的三岁
小孩

偶然的夜晚 释然的酒宴

却不能如愿全能

「那么，何时再聚」只有
这句约定

就凭这句明日奋斗新的一
天

根も叶も堀り：日语惯
用语 根掘り叶掘り表示

ふたり じ はな さ
二人の 时间 に 华 を 咲か
す

じっかん でき ゆうしゅう び
実感 出来 れば 有 终 の 美

あなた たちば じゅうじゅうしょうち
贵方 の 立场 も 重々 承知

刨根问底

两人的时光如昙花一现

如果能有实感的话也想有
终之美

你的立场我也一清二楚

たま ランコ
む せかい まく
向 こうの 世界 が 幕 を
と 闭 じて

かれ おお いき
彼 らは 大 きく 息 を
ついた

ぼく わか
仆 らもいずれ 別 れるだ
ろう

ゆ さき
それぞれの 行 く 先

たま ランコ
対面的世界 落下了帷幕

他们开始鼾声四起

我们某日也将相互道别吧

走向各自不同的方向

ランコ たま
きみ わか
君 との 别 れは ちょっと
かな 悲 しいけど

なみだ わか
涙 の 别 れは もっとつ
らい

ぼく
だから 仆 は きっとそ
とき
の 时

ランコ たま
和你的诀别 虽有些悲伤

但流泪的告别 也更难受

所以我决定 到那时一定

わら
笑 いながらに 言 うよ

会一边笑着 一边说

たま

ふたり
二人

ランコ

さわ
騒 ぎ

雨天決行

ふたり よ
二人 酔

たま

两人 喧闹

ランコ

两人 沉醉

雨天決行

ふけ
い 耽 る

こんや さいご
今夜 が 最后 でもないの

明明今晚还不是最后

に

ぼく しかい
仆 の 视界 が ぼやけて

我的视线渐渐模糊

いく

そで ぬぐ
袖 で こっそり 拭 う

提起衣袖偷偷拂去

たま

うすくも こ
薄云 越 えて

ランコ

そそ つき あ
注 ぐ 月 明

雨天決行

たま

穿透薄云洒落的月光

ランコ

雨天決行

かり

きみ よ そ
君 と 寄 り 添 って この

和你 并肩走在 这条小道

よみち
夜道

こんや つき あか
今夜 は 月 が 明 るいけど

今夜月光还算明亮

すこ
もう 少し このまま

还想这样继续一会儿

たま

うきよ
「 忧世

ランコ

うつせ うんぬん
郁世 」云々

雨天決行

なげ
叹 き

たま

ランコ

雨天決行

ぶし
节

さかな あお さけ にがみ
肴に 呷る 酒の 苦味よ
けれども しみ 入り 酔い
ぬのは
きみ い
君と 居るからこそ

たま	ランコ	雨天決行	たま	ランコ	雨天決行
----	-----	------	----	-----	------

とせい えんせい うら ぶし
「渡世は 厭世」 恨み 節
さかな ひた さけ にがみ
肴に 浸る 酒の 苦味よ
けれども しみ 入り 酔い
ぬのは
きみ い
君と 居るからこそ